

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年2月4日

事業所名 FUNDA

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	人数が多いプログラムは大きな部屋で行うようにしている。	
	2 職員の配置数は適切である	83%	17%		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	毎日の掃除、消毒は徹底している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	ミーティングを行い、振り返りを行なっている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	ホームページにて、評価結果として公開する予定。	今年度が初めてなので、これから公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		これから第三者委員会を作っていく予定。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	発達障害に関する研修や、ビジネスマナーの研修も行なっている。研修はまだ受けていないが、研修を受ける機会がある(日程は未定)と連絡を受けたので、この学びの機会を有意義なものにしたい。専門知識、ビジネスマナーなど積極的に行っています。	
適切	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者と本人の意向をヒアリングして作成している。支援計画はミーティング時に確認を行なっている。子どもの意見をしっかり聞いて、計画に入れています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%	フェイスシートの活用等。	すべてを標準化するのではなく、その児童に合ったツールも併用していきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	新しいプログラムを毎月作っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童からの意見も取り入れて、プログラムを作成している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
別な 支援の 提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	本人の状態に合わせて、計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎朝のミーティング。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	翌日の朝になることもあるが、しっかり共有して振り返りを行っている。 その日にできない場合は、必ず次の日に行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検 証・改善につなげている	100%	0%	児童の様子を記録し、いつでも職員が確認できるようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見 直しの必要性を判断している	100%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っ ている	83%	17%		
関係機 関や保 護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子ども の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下 校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡)を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治 医等と連絡体制を整えている	50%	50%	現段階では対象となる児童はいない。 心療内科の先生やカウンセラーの方とも連携を取っている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発 達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉 サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の 情報を提供する等している	33%	67%	まだ卒業生がいないため実施していない。実施する予定である。 まだ卒業生がいない。 今回から初めて行うので、まだしていない。 これからするための準備はしている。	今年度から行っていく予定。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門 機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと 活動する機会がある	33%	67%	別の放課後等デイサービスとは、交流会を行なっている。	コロナがもっと落ち着いたら、考えていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	毎回サービス提供記録を作成し、児童の様子や課題を伝えている。気になることがあれば、電話でお伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	保護者会は定期的に開催しており、ピアサポートの機会を作っている。	保護者の方の話をよく伺って、アドバイスなどを行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	17%	定期的に保護者会を開催している。 保護者さん同士が仲良くなっている。	2か月に1度、保護者様同士が関われるようにしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月通信を配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	視覚支援や、回答を選択肢にするなど工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%	まずは家族が参加できるようにしている。	ご家族を招待することから始めている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	非常階段を使った避難訓練も行なっている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		